

子どもたちが演じる人道創作劇

「イエフダーと七つの灯」命をつないだビザの記憶

11月25日(土)、「八百津小学校ひびきあい集会」がファミリースセンターにて行われます。

「ひびきあい集会」は、第一部の5・6年生児童による人道創作劇「イエフダーと七つの灯」上演と、第二部の歌手の藤田恵美さんを招いての「OMOIYARI(思いやり)音楽会」の二部構成となっています。

八百津小学校の人道創作劇への取り組みについて紹介します。



命のビザモニュメント



1月31日ぎふ清流文化プラザでの上演の様子
(出演は昨年の八百津小6年生)

「イエフダーと七つの灯」は、今年1月31日、岐阜市にあるぎふ清流文化プラザで行われた『ふるさと教育フェスタ2016』で、昨年度の6年生によって初めて上演されました。昨年まで11年にわたり上演されてきた「メノラの灯」からシナリオが一新。

〈ストーリー〉

人道の丘で清掃活動をしていた八百津小学校の児童が、時空を超えて第二次世界大戦中のリトアニアにタイムトリップします。

そこで、ユダヤの人々が迫害に苦しむ姿を目の当たりにする子どもたち。そして、イエフダーという名のユダヤ人の少年と出会い、当時のリトアニア領事代理だった杉原千畝氏の苦悩と勇気ある決断に心を打たれる…。



杉原千畝像



アンネのばら